

AMDAは、インドのビハール州ブツダガヤで小さなクリニックを運営している。ブツダガヤはお釈迦様が悟りを開いた仏跡として海外から多くの観光客が訪れる一方で、インドの最貧州にある都市である。

このブツダガヤのクリニックに開院当初から関わる女性がいます。彼女はインドの伝統的医学・アーユルヴェーダのマッサージを専門とし、名前もなんと「ヴェーダ」という。

インドには身分制度がまだ根強く残っている。その中でヴェーダは最下層。しかしヴェーダは一切を振り切り、社会貢献に奔走している。

AMDAのクリニックから独立したヴェーダ。今は土壁とわらで造った「お年寄りの家」を運営している。名称は「ヴェーダ・マザーテレサ老人の家」。「ヒンズー教徒ではなかったのか？」と疑問に思ったが、ヴェーダにとってそんなことは関係ない。お年寄りのために、さまざまな人々に呼び掛

AMDA理事 難波 妙

一日一題

泥中の蓮

け、支援を得られるためなら名前だって「術」となる。実際、数年前にお年寄りの家が水害で流れた時には、近くの村の公用地がヴェーダに提供された。

2年前に訪ねた時には、剃髪して仏教徒になると言っていた。これにはさすがに驚いた。節操がないと言われればそれまでだが、お年寄りの家の運営に加え、女性の能力開発のための職業訓練所をつくっていたので、運営資金を工面するための「術」だったのだろう。さすがに仏教の聖地とされる場所で、ともすれば詐欺になりかねない行為なので、これはやめるように説得した。

小規模融資で牛を飼えば、その牛に「タエ ナンバ」という私の名前を付ける。もう愛着を感じずにはいられない。

こうしてヴェーダは、いかなる艱難辛苦もひらりとかわし、今日も自らの使命を結実させるためにたくましく生きている。まさに「泥中の蓮」である。